

目的 本一報においては、標準寸法仕立ての女物単衣長着と着用した場合の立位時の外観と動作機能、及び各種の割り出し式の検討した結果を報告した。今回は、腰圍の數値いかんにかかわらず適用が可能な割り出し式に關する試案を求めた。次に、和服の性格からして着付けが重用視されているが、実際には外観や動作の上で問題がある。そこで身中の限界について検討した。

方法 身中の割り出し式の試案にあたり、後中については、脇線の位置が問題になるので身体計測により左右脇骨棘を求め脇線の位置を決定した。前中と衿中については、従来の標準寸法である前中23cm、衿中15cmについて検討した結果、黄金比に近似であることから、前腰中の線分割が訂ち前中と衿中になるとの観点から比で割り出し式をみちびいてみた。次に身中の限界については、腰圍+2cm、4cm、6cmと身中を変化させた女物単衣長着を製作し腰圍が平均的のモデルに着用させて着装実験を行なった。

結果 身中の割り出し式に關する試案

後中について $0.25 \times (H + 20)$

前中について $0.31 \times (H - 20)$

衿中について $0.19 \times (H - 20)$ H—腰圍

・身中の限界について

腰圍+4cmまでの製作物が外観及び機能の面から適当であった。